

國學院大學文学部

日本文学科

ガイドブック

もっと日本を。もっと世界へ。



目次

日本文学科へのいざない	1
日本文学科の構成	2
日本文学科 3つのポリシー	4
日本文学専攻の概要	6
日本語学専攻の概要	8
伝承文学専攻の概要	10
書道関連講座の概要	12
図書館学関連講座の概要	13
国語教育関連講座の概要	14
教育関連の副専攻プログラム	15
専門教育科目構成	16
卒業後の進路	17



日本文学科へのいざない

日本文学科代表 吉田 永弘

國學院大學の日本文学科に興味・関心を持ってくださいますありがとうございます。

本学科は、「日本文学」「日本語学」「伝承文学」の3つの専攻を柱として、日本の文学、言語、風俗習慣、儀礼、書道などを幅広く学んで、日本文化の特質や日本人の精神性を理解することを目的とした学科です。教員構成は、日本文学専攻10名、日本語学専攻5名、伝承文学専攻5名、書道を専門とする2名、図書館学を専門とする2名、教育学を専門とする3名の計27名によって、多彩な内容の授業が展開されています。

大学の授業には、教員が学問の知識・方法を伝えることを主とする講義科目と、その内容を踏まえて学生がみずから調査・研究して発表することを主とする演習科目とがあります。1年次には、3つの専攻それぞれの分野の全体像を講義科目で学びます。そのうえで、2年次に、希望する専攻を選択し、専門的な講義科目と並行して演習科目での学修を行います。3、4年次には、「卒業論文」の作成に向けて、より本格的な研究を行います。ひとつの課題を深く追究するか、幅広く多くの課題に接するかは学生の自主性に任せているため、「卒業論文」を選択制としていますが、多くの学生が「卒業論文」の作成に取り組んでいます。

大学で学ぶ意義は、知識を身につけることだけではなく、学問をする人と出会い、学問の方法を身につけることにあります。

知識は独学でも身につけることができますが、学問の方法を身につけるのは独学では難しく、大学という場において、問題を発見する方法や解決するための調査と分析の方法、他の人を説得する伝達方法を、好きな分野での訓練を通して身につけるのが効果的でしょう。本学科には、そうした学問の方法を身につける環境が整っているという大きな特色があります。数多い教員と講義・演習科目に加え、図書館・資料室が充実し、教員と大学院生・学部生が一緒になって課外で取り組んでいる多くの研究会が組織されています。このような環境のもとで、國學院大學ならではの学問が継承されているのです。

本学科の学生は、卒業後、研究者を目指して大学院に進学したり、中学・高校の国語教員になったり、日本語教師になったり、図書館の司書になったり、博物館の学芸員になったり、公務員になったり、一般企業に勤めたりして、さまざまな道に進んで行きますが、学問の方法を身につけていると、社会のさまざまな場面において応用することができ、物事の本質を把握する姿勢を保ち続けられるものと思われま。

このガイドブックの中には、受験生・高校生のあなたにとって、未知の学問の世界の一端が紹介されていることと思います。ページをめくるたびに「もっと詳しく学びたい！」と國學院大學の日本文学科への興味・関心が増すことを願っています。

——いざたまへ。國學院大學へ。



日本文学学科の構成 (令和2年度)

國學院大學は、明治15年(1882)設立の皇典講究所が母体です。日本文学学科は、その学問の伝統を踏まえつつ、古代から現代に至る広範囲の文学・言語・風俗習慣・儀礼などの研究を通して、日本文化を総合的・体系的に理解することを目的としています。それとともに、今に生きる私達にとっての創造への指針たることをも目指しています。

この目的と目標の下に日本文学学科は、日本文学専攻・日本語学専攻・伝承文学専攻の3専攻によって構成されています。

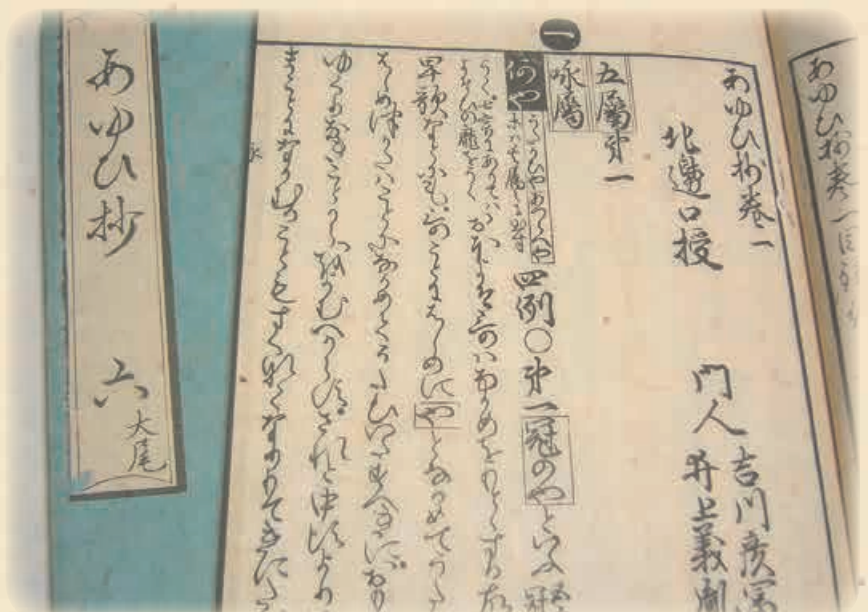
日本文学専攻

古代から近現代に至る各時代ごとの主要な作品・作家に触れつつ、日本文学全体の流れをつかむとともに、個々の作品事例の集中的な研究を行います。それにより文学に現れた日本人の心情・意義・特質を明らかにすることを目標とします。



日本語学専攻

日本語の、古代から現代にわたる発音・文字・表記・文法・語彙・方言などについて、多様な形態で伝わる文献資料はもとより各種メディアや現代日本語の動態に至るまで広く対象として研究します。さらに、進路に応じて国語教育・日本語教育に必要な知識を学び、言語情報の処理能力を養い、日本語の有する法則的事実を明らかにすることを目標とします。





伝承文学専攻

昔話・伝説などのように言葉によって、民俗儀礼などのように行為によって、そして民具のように形象によって伝達継承されてきた文化を対象とします。したがって具体的には、伝承性の高い説話文学や歌謡などの文学を取り上げるとともに、日本民俗学の理論的な枠組みを学び、日本の民俗文化の特質を明らかにすることを目標とします。

表現文化プログラム

散文表現、韻文表現、文字表現、身体表現などの表現方法を学修対象として、表現の可能性を追究してゆくことを目的とするプログラムです。表現のありようを実践的に学ぶことによって、表現や創作また出版・放送などに携わることのできる人材の育成を目指します。3専攻のいずれかに属しつつ、必要に応じてこのプログラムの科目を履修することができます。

「書道」「図書館学」「国語教育」も日本文学科の大きな柱となっています。3専攻のいずれかに所属しつつ、学修することができます。

書道

日本文学科には、書道関連の講座が多く開設されており、書道を専門とする教員スタッフによる講義・実技指導を通して、書の世界を実践的に学び研究することを目標としています。そのため専攻とはなっていないものの、国内有数の教員数(専任・兼任合わせて13名、令和2年度)をそろえて、三専攻のいずれに進んでも書道科目の履修、及び書道の教員免許の取得が可能となっています。

図書館学

生涯学習社会の実現にむけて図書館の役割が重要になりました。図書館司書課程では地域の図書館で働く司書を養成します。情報社会の専門家の養成も視野にいれています。また、学校図書館司書教諭も養成します。司書教諭は学校図書館を運営して、読書活動と情報活用能力の育成を支援します。

国語教育

日本文学科では国語教育に関する卒業論文の執筆が可能です。教職課程を履修する学生を中心に、当学科における文学研究を発展させる形で、国語教育に関する卒論執筆を指導します。研究テーマには、教科書に採録されたテキストの研究や、国語教育の実践や思想に関する研究などがあります。

卒業認定・学位授与方針

ディプロマ・ポリシー

文学部日本文学科は、以下の能力を備えた人材を育成します。

A 知識・技能

- (DP-A1) 日本の文学・言語・文化について、正確に理解することができる。
- (DP-A2) 日本の文化的背景について、基礎的な知識を身につけることができる。
- (DP-A3) 日本の文学・言語・文化について、平易に伝えることができる。

B 思考力・判断力・表現力

- (DP-B1) 日本の文学・言語・文化について、研究テーマとなる学修課題を見出すことができる。
- (DP-B2) 上記の学修課題について、論理的・分析的に考察することができる。
- (DP-B3) 考察した結果について、平易かつ的確に表現することができる。

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

- (DP-C1) 日本の文学・言語・文化についての諸問題に常に関心を持ち、主体的に取り組むことができる。
- (DP-C2) 他者の意見を理解した上で、みずからの見解をまとめることができる。
- (DP-C3) 日本の文学・言語・文化についての知識を、他者と共有することができる。

以上の教育目標を達成するために設けられた授業科目を履修して所定の単位を修得し、かつ共通教育プログラムにおいて所定の単位を修得した者に、学位を授与します。



教育課程の編成・実施方針

カリキュラム・ポリシー

文学部日本文学科は、学位授与方針が示す教育目標を達成するため、下図に示すような教育課程を編成します。

科目群	卒業認定・学位授与方針 (DP)									各科目群の教育目標	
	知識・技能			思考力・判断力・表現力			主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度				
	A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3		
学科基幹科目	学科基礎科目	◎	○		○						専門的学修のための知識・技能を修得し、広い視野と教養を身につける。
	専攻基礎科目		◎	○		○					
	専門基礎科目	◎	○			○					
	専攻演習科目				◎		○	○			
	専攻外演習科目					○	◎		○		
展開科目	選択Ⅰ類				○	◎				○	学生が希望する専攻分野についての理解力や知見、実践力を養う。
	選択Ⅱ類				◎		○			○	
	選択Ⅲ類				○	◎		○			
	選択Ⅳ類						◎		○	○	
卒業論文					○		◎		○		これまでに修得した専門的な知識や技能を活かし、学修の集大成としてまとめる。

入学者受入れ方針

アドミッション・ポリシー

文学部日本文学科では、以下のような学生を受け入れます。

- 日本の文学・言語・文化を研究したいという意欲を持ち、古典語を含む日本語と日本文化の基礎的な学力を備えている者。
- 自ら問題を発見し、資料を収集・整理・分析して自分の考えをまとめ、文章で表現できる能力と姿勢を身につける意欲を持つ者。
- 日本の文学・言語・文化の研究を通して新たな文化創造に参画し、社会に積極的に働きかけ貢献できる者。

上記の方針に基づき、以下の観点で入学希望者を審査します。

- (AP1) 国語(古文・漢文を含む)を中心に、日本文学科で学ぶ内容に対応する科目について、高等学校卒業程度の知識・技能を修得しているか。
- (AP2) 自らの知識・技能に基づいて問題を発見し、物事を論理的・客観的に考え整理・分析する力と、それを自らの言葉で表現する能力があるか。
- (AP3) 日本の文学・言語・文化の学修・研究に強い意欲を持ち、将来において社会に発信する主体となるために、積極的に学ぶ姿勢があるか。

また、入学までに「古典A」「古典B」「現代文A」「現代文B」およびそれに相当する教科を履修していることが望まれます。

日本文学専攻



日本文学専攻では、長い伝統的な学問体系を尊重し、日本文学科が教育目標として掲げる「古典の読める國學院」の実現を目指して、古典文学研究に重きを置いています。一方、近現代文学の研究についても力を入れ、古典と現代文学についての総合的な学修を可能にしています。

具体的には、上代・中古・中世・近世・近現代と、5つの時代の文学作品を取り上げて講義や演習を行っています。たとえば、『古事記』『万葉集』『源氏物語』『蜻蛉日記』『平家物語』『宇治拾遺物語』『徒然草』『日本永代蔵』『奥の細道』などの古典作品、近現代文学では夏目漱石、川端康成、太宰治、横光利一などの小説、中原中也の詩などです。これ以外にも多くの作品、作家が取り上げられており、その種類の豊富さは本専攻ならではのと言えます。内容的には、たんに作品や作者の気持ちを読み取るだけではなく、作品の成立に関する時代的背景や同時代的な比較などを行います。また原典に立ち返り、古典籍や作家の自筆原稿などにも触れますので、高校までに培った鑑賞力をさらに伸ばしながら、研究的姿勢を養っていきます。

1年次に日本文学科としての基礎を修得した上で、専攻に別れる2年次では「日本文学史」などの講義で全体的な流れをとらえるとともに、「日本文学講読」などの講義を通じて歴史的背景や作品の構造分析など、作品読解の研究的な基礎を修得します。また、学生ひとりひとりが希望する分野の「日本文学演習Ⅰ」で自らの発表、討論を通じて思索を深めていきます。3年次以降は発展的に「日本文学演習Ⅱ・Ⅲ」といった演習を中心にしながら、「日本時代文学史」や「日本古典文学研究Ⅰ～Ⅳ」、「日本近現代文学研究Ⅰ・Ⅱ」などの講義を通じて各自の問題意識を養い、論点を明確にしながら卒業論文の完成を目指します。卒業論文は選択制ですが、日本文学科では、4年間の学修の集大成として書くことを推奨しています。

日本文学専攻の特徴の一つとして、国語科教師を志望する学生が多いことが挙げられます。これまで紹介してきましたカリキュラムの修得を通じて、古典文学への深い造詣や近現代文学の読解方法など、専門的な知識を身につけ、教

所属教員一覧

石川 則夫
近現代文学

井上 明芳
近現代文学

岡田 哲
近世文学

谷口 雅博
上代文学

土佐 秀里
上代文学

中村 正明
近世・明治初期文学

野中 哲照
中世文学

針本 正行
中古(平安)文学

山岡 敬和
中世文学

山田 利博
中古(平安)文学



横光利一「旅愁」直筆原稿



写本の調査

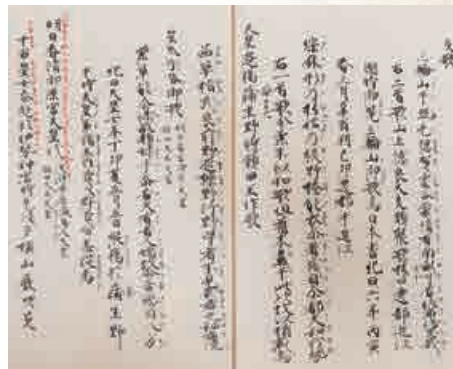
壇に立っています。その点で日本文学科は「教職の國學院」としてチャレンジプログラム「古典教育研究」を、中国文学科とともに運営しています。将来的には教科書の指導書執筆や編纂ができる専門性を修得するプログラムです。教員採用の際、このプログラムの修了証は大きなアピール・ポイントとなるでしょう。

日本文学について深く知ることは、しかも専門的な研究をしながら知っていくことは、グローバル化がますます進む現在の日本にとって、海外から求められる日本文化についての知識や知性に応えていけることとなります。日本文学を通じて日本文化を発信することは国際的な教養に必要でしょう。日本文学専攻は、日本語学専攻、伝承文学専攻とともに総合的な日本文化の発信地となっているのです。



日本文学演習（おくのほそ道）では、受講者が一人ずつ『おくのほそ道』の章段にあたり、担当者が一人ずつ発表するという形式をとります。この個人発表という形式は、グループ発表と異なり、一人で研究を進めるので、打ち合わせの手間もかからない分、作業を気楽に進められます。しかしその一方で、全ての責任が自分にかかってくるので、意欲を持って臨まなければ、発表としての体裁を整えることすら難しいでしょう。しかし、苦労に見合った分の達成感と成果が、発表を終えた後に残るのも確かです。『おくのほそ道』に限らず、あらゆるテキストは奥が深く、情熱を注げば注ぐほどさまざまな姿を見せてくれるものです。おそらくはそれが、一生ものの値打ちを持つことでしょう。

まずは、好きな文学作品を見つけてください。有名作家だとか文豪だとかいう評価に惑わされないでください。古事記、万葉集、源氏、平家、西鶴、漱石でも、読み物として大変面白いものなのです。まずは、最初の数ページを読んでみて続いて読書できそうだったらその後へ進めるとか、徒然草の面白そうな章だけいくつか選ぶとか、また、古典作品なら音読してみるとか、いろいろな読み方を試みていいのです。そうしているうちに文学作品の表現の持っている特徴に気がつくはずですよ。こうなればもう中級レベルの読解に進んでいるのです。要は文学を楽しんでください。



万葉集（西本願寺本・複製）



源氏物語（河内本・複製）

日本語学専攻



日本語学は、日本語を研究する学問です。研究の対象となる日本語とは、どのような日本語だと思いますか？ ふだん話している日本語を思い浮かべる人もいれば、新聞や小説に書かれている日本語を思い浮かべる人もいます。あるいは、古典の文学作品の中で使われている昔の日本語を思い浮かべる人もいます。それらはすべて日本語学の研究対象となります。日本語学は、古代から現代までのあらゆる日本語を研究対象として、音声・語彙・文法・意味・文字・文章・方言など、さまざまな観点から分析し、日本語の実態・歴史・規則を明らかにしていきます。

言葉って不思議なものです。例えば「か」に濁点が付きますが、「ま」には付きません。さらにハ行の仮名だけは濁点のほかに半濁点も付きます（「ぱ」のように）。なぜハ行だけにそのようなことが起きるのでしょうか。また、「午前中」といえますが、「午後中」といえないのはなぜでしょう。親の兄弟は「おじ／おば」と男女で区別しますが、その子を表す語「いっこ」は男女の区別をもちません。「しないでいいよ／しなくていいよ」の「いいよ」を「ほしい」に変えると、「しないでほしい」と言えますが、「しなくてほしい」とは言えなくなります。なぜでしょう。「足す」と「加える」はどう違うのでしょうか。音韻・語彙・文法・意味に関する問題の一例をあげましたが、これらの問いには日本語学の知見が答えを与えてくれます。ふだん空気のように使っている日本語について、ふとした疑問が日本語学の課題になるのです。

本学の日本語学専攻では、多彩な内容の講義・演習科目がありますので、日本語についての幅広い知識と技能を身につけることができます。1年次に「日本語学概説Ⅰ・Ⅱ」で日本語学の各分野を幅広く学修し、2年次では「日本語史Ⅰ・Ⅱ」で日本語の歴史、「日本語学講読Ⅰ・Ⅱ」で源氏物語の日本語を詳しく学修し、「日本語学演習Ⅰ」で実践的な研究を行います。3年次以降は専門的な研究を行う「日本語学演習Ⅱ・Ⅲ」「言語学演習」を中心に、卒業論文作成に向けて学問を深めていきます。これらの学修を通して、国語教師や研究者になる場合にはもちろん、企業に勤めて日本語で情報を発信する場合にも有益な知識と技能が得られることと思います。

所属教員一覧

小田 勝

古典文法(共時)

菊地 康人

日本語教育

三井はるみ

方言学・音声学

諸星美智直

日本語教育・近代語

吉田 永弘

古典文法(通時)



『詞の玉緒』三転証歌



『あゆひ抄』装図

また、副専攻の「日本語教育（日本語教員養成課程）」では、日本語を母語としない人に日本語を教えるための知識と技能を身につける、日本語教育に関する講義・演習もあります。2年次までに日本語学の基礎知識を学修した後、3年次以降に「日本語教育研究Ⅰ・Ⅱ」「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ」で日本語の母語話者が非母語話者に教える際に必要な知識を学修し、「日本語教育学演習Ⅰ・Ⅱ」で実践的な技能を身につけます。



日本語学講読ⅠⅡでは、中古和文の代表的作品である『源氏物語』（令和元年度はⅠは桐壺巻、Ⅱは夕顔巻）を日本語学的に読解します。すなわち、機能語（助詞・助動詞）の役割、各語句の係り受け、構文、敬語等について明示的な説明を与えた上で、その結果としての完全な直訳を付けることを目指します。この作業を通じて、古文の読解力を培い、あわせて、実証的な古典語研究の実際に触れます。

日本語学演習Ⅱは、令和元年度は百人一首をテキストとして、語法・修辞の演習を行っていきます。

「かぼちゃ」の分布（語形）



伝承文学専攻



「伝承文学」とはあまり聞きなれない言葉だと思います。伝承されてきた文化や説話を手掛かりに、日本の文化や文学を理解する学問の方法です。伝承文学の考え方は、國學院大おりくちしのぶ學文学部教授で、民俗学者・国文学者・歌人だった折口信夫がとった「生活の古典」という視点、それは「文学の民俗学的研究」ということができる学問伝統を受け継いでいます。

日本の文化や文学を総合的に理解するためには、文字で書かれた資料を読み解くことと、ことばや行為、技術、感覚、造形などの非文字の領域で受け継がれてきた文化の領域を理解することが必要です。具体的に挙げると、口承として語られてきた昔話や伝説、各地に歌い継がれてきた民間歌謡（民謡）、一年の折り目や人生の節目に行われる年中行事や人生儀礼、村々の誇りと楽しみの対象だった祭礼（お祭り）や民俗芸能、生活を成り立たせている働き方の技術（生業）、人の移動とつき合い（交通・交易）、人びとの信じてきた小さな神仏やおまじない（民間信仰、俗信）、そのほか衣食住のあれこれなど、多岐にわたります。

こうした生活文化の現状をとらえ、その変遷を理解する学問を民俗学といいます。伝承文学は、この民俗学の方法と資料を用いて、日本文化と日本文学を解き明かそうとする学問です。そのためには、実際に現場を歩き、人と会い、聞き書きをすることが大事です。この調査を「フィールドワーク」といいます。伝承文学専攻の学びでは、伝説や祭礼の行われている現場を訪ねて実際にその土地や場所の空気を知り、そうした伝承を持ち伝えている人たちに直接会ってお話を聞かせてもらい、伝承の歴史や細部、意味について教えていただくことが大事となります。

そうして得た各地の資料を、文字に記された過去の資料や、外国も含む他の土地の資料と比較することで、文化の中に位置づけていくことができます。伝承文学の研究領域は、日本文化だけではありません。身近な民俗事象を手掛かりにして、日本文化の、アジア文化の、ひいては人類文化の普遍性まで考えていくことができるのです。

所属教員一覧

飯倉 義之

現代民俗論・都市民俗論

大石 泰夫

芸能を中心とした民俗学と上代文学

小川 直之

民俗学

服部比呂美

民俗学

花部 英雄

日本の口承文芸



花田植(広島県北広島町)



荒神森と藁蛇(島根県松江市)

民俗学の対象は過去の文化には限りません。例えば近畿地方の一部の風習でしかなかった「節分の巻寿司」が、コンビニエンスストア・チェーンが「恵方巻」と名付けて売り出すことによって都市的な、全国的な行事に変わったことは、「年中行事の変化」として考えることができます。またネットやSNSで噂される「都市伝説」は、まさしく現代の民話だといえます。現代の都市にも民俗学の対象は見つけることができます。身の回りの当たり前の生活の中から学問の対象を発見できるのも、伝承文学のおもしろさの一つです。

國學院大學の伝承文学専攻は、日本の民俗学研究の拠点の一つです。民俗学や口承文芸を深く専門的に学びたいという希望に応えることのできる専攻です。伝承文学という方法や民俗学という学問に興味を持って入学をめざしてください。



双体道祖神(高崎市熊久保)

演習Ⅰでは、前期に昔話、後期は日本の伝説をテーマに発表をしました。それぞれ2回、自分の興味あるテーマを見つけ、該当する文献資料やフィールド調査をして、資料集めやレジュメ(発表資料)を作成し、30分程度の発表をします。調べて発表するのはしんどいですが、やりがいもあります。いろいろな発表を聞くことができるのも有意義です。



花祭の櫛鬼(愛知県東栄町)



折口信夫が描いた河童図

書道関連講座



日本文学科では、専任教員と兼任教員をあわせて13名（令和2年度）という国内有数の書道を専門とする教員スタッフ数を擁して、次のような多種多様な書道関連講座を開設しています。

【実技系科目】

- 書道……楷書・行書・
仮名の基礎（書写を含む）
- 書道実習Ⅰ…楷書・隸書
- 書道実習Ⅱ…行書・篆書（篆刻を含む）
- 書道実習Ⅲ…草書・仮名
- 書道実習Ⅳ…発展的な作品制作
- 隸書法
- 篆書法篆刻学

- *表現文化プログラムのうち、下記の科目も書道を主とする内容です
- 表現文化論Ⅲ A（寛永文化と書など）
- 表現文化論Ⅲ B（文字とデザインなど）
- 表現文化演習Ⅱ（日本の書論など）

【講義系科目】

- 書道概論
- 日本書道史Ⅰ
- 日本書道史Ⅱ
- 中国書道史Ⅰ
- 中国書道史Ⅱ
- 書論研究
 - *書論とは、芸術論・技法論など書に関する様々な理論のことです
- 古筆学
 - *古筆とは「古人の筆跡」。特に平安～鎌倉時代の仮名の名品のことを言います

大別すると、実技系科目と講義系科目からなりますが、両者は密接に関連するものです。これらの科目を通して、書の世界を実践的に学ぶとともに、体系ある学問としての書道を探究していきます。さらに、書道に関するテーマで、卒業論文に取り組むことも可能です。

書道関連講座は、日本文学・日本語学・伝承文学のどの専攻に所属していても受講することができます。

今日、書作品とされるものは、書かれている内容に着目すればその多くが『古今和歌集』などの古典文学作品であり、書かれている言葉そのものに着目すれば日本語史の資料と見ることもできます。また筆供養など、書道に関わる民俗儀礼も少なくありません。

このように、書道は3専攻のいずれとも深い関わりを持っています。そもそも、「琴棋書画」（棋は囲碁のこと）、「詩書画三絶」の語に示されるように、近代以前の東アジア世界において、書は知識人にとって欠くべからざる教養の一つでした。書道は、日本文学・文化を理解する上で重要な位置を占めるものなのです。

また、所定の科目の単位を修得することで、高等学校の書道の免許を取得することができます。日本文学科では、これまで多くの書道教員を輩出してきました。国語教員をめざす皆さんにとっても、書道の免許をあわせて持っていることは、大きなアピールポイントとなることでしょう。積極的な受講を期待します。

*書道関連講座は、免許取得希望の有無を問わず、履修可能です。

書の世界を実践的に学ぶとともに、体系ある学問としての書道を探究していきます。

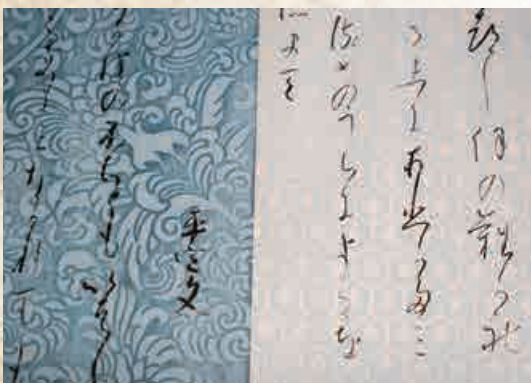
所属教員一覧

野村ひかり

書道・漢字

橋本 貴朗

書道・仮名・書論・古筆学



図書館学関連講座



概要

図書館の種類には国立図書館、公共図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館があります。

日本の国立図書館は国立国会図書館です。本館が東京永田町にあり、京都府精華町の関西館、国際子ども図書館、最高裁判所図書館、文部科学省や厚生労働省、気象庁などの各省庁にある図書館も国立国会図書館の組織に含まれます。国立国会図書館の最も重要な仕事は国会議員と国民に対する資料提供・情報サービスです。

街で見かける図書館のほとんどが公共図書館です。公共図書館には公立図書館と私立図書館があります。日本には3,000館を超える公立図書館があり、都道府県立図書館と市区町村立図書館に分かれます。國學院大學渋谷キャンパスの近くには、東京都立中央図書館と渋谷区立渋谷図書館があります。私立図書館は民間の法人が設置する図書館で、数が少ないのですが、東京子ども図書館（東京都中野区）などがあります。

小学校から高等学校までの学校に設置されるのが学校図書館です。大学・短期大学・高等専門学校に設置されるのが大学図書館です。専門図書館は専門資料を扱う図書館で、企業・研究機関・美術館・博物館などが設置する図書館があります。青山にカナダ大使館内のE.H.ノーマン図書館、東京ドイツ文化会館の資料室、恵比寿に日仏会館図書館などがあります。2016年、南青山に「旅の図書館」が開館しました。

昔の図書館は受験勉強のために利用する人や教養を高めるために読書をする人が行くところでした。現在は気軽に小説を借りるために、趣味や生活に役立つ本を探すために図書館を訪れる人が増えています。ビジネス街の図書館は夜間も開館しているので、会社員で仕事に必要な資料を使って調査するために訪れる人がいます。利用者が「文化教養型」から「生活ビジネス型」へ変化しています。生活に不自由を感じる人、社会の中で弱い立場の人、外国人のように異なる文化習慣を持つ人にも幅広くサービスを広げています。

日本の図書館法（昭和25年制定）で、「図書館司書」は公共図書館の専門職員です。国立国会図書館、大学図書館、専門図書館などは「図書館職員」が働いています。

本学では昭和27年から図書館司書課程を開設しています。図書館資料と学術情報の選択収集・組織化・保存・利用に関する専門知識と技術の習得を中心に、情報社会のスペシャリストとしての資質の養成も視野にいれています。

学校図書館法（昭和28年制定）で、「学校図書館司書教諭」が教員として学級や教科を担当しながら、学校図書館の運営に関わります。平成26年の改正で「学校司書」という職員の配置が定められましたが、その養成、職務については今後、検討されます。

本学は昭和29年に学校図書館司書教諭講習を立川市教育委員会と共催で開始しました。日本で最も早くから司書教諭の養成に取り組んだ伝統があります。日本と世界の学校図書館の状況を視野に入れて、21世紀を生きる子どもたちが文字文化に親しみ、情報リテラシー（情報活用能力）を習得できるように指導する司書教諭の実践的能力を養成します。

本学は、日本で最も早くから司書教諭の養成に取り組んだ伝統があります。

所属教員一覧

新藤 透
図書館情報学

須永 和之
図書館情報学



国語教育関連講座



教育を専門とした学部学科で学ぶ以外にも教員になる方法があります。例えば日本文学に関する専門教育に加え、教職に関する授業(教職課程)を履修し、国語科の教員免許を取得する、ということが認められています。國學院大學の日本文学科で学び、同時に教職課程を履修するのも、中学校・高等学校の国語科教員への道の一つなのです。

文学部卒業のための単位に加えて、それとは別に教職課程の単位を取ることになるのですから、その道のりは少々険しい。日本文学科の授業では文学の専門家、教職課程では教育の専門家を目指し、自分を作ることになります。二つの異なるカリキュラムを同時にこなすには、教職への強い意欲と日本語や伝承文化も含めた広い意味での日本文学への探究心、加えて自己をマネジメントする力とが必要になるでしょう。

しかし、文学と教育、専門が二つあるというのは、教師としては大変な強みです。国語に関して、教育と文学の両方の立場から捉えることができるからです。実際、國學院大學を出た国語科の教員が高く評価されている理由の一つは、そこにあります。文学の魅力を知り、それを体現できるだけでなく、その魅力を生徒に実感させる授業を行える。本学で学べば、文学者にして教育家、そんな国語科教員を目指すことも可能なのです。

では、四年間どのように学ぶことになるのでしょうか。教職課程に絞ってみてみます。

一年目。まずは入門編。例えば、「教職論」の授業では、教師という仕事について考えます。これは同時に自身の教育体験の見つめ直しでもあります。授業を受ける側だったみなさんが、四年後、授業をする側になる、そのための第一歩です。また特別支援学校や福祉施設に向いて学ぶ「介護等体験」のためのガイダンスもあります。

二年目は、「国語科教育法」の授業が始まり、国語の先生に少し近づいた気分。学科での学びをどう授業に活かすか考えることになるでしょう。一方で、介護等体験を通じて、一年目に学んだ教育の本質について自らの言葉で改めて捉えなおすことにもなります。あいまだった教師の実像が見えてきて、一生の仕事とすべきか悩む人も出てくるはず。その時はぜひ、大いに思い悩んでください。

三年目の後期に開講される「教育実習ⅠA」という講座では、教育実習へ向けた事前指導を行います。その際、二年半の学びがどれだけ身に付いているか冷静な自己評価を必要とします。また、三年次には進路や生活の指導に関する講座も始まり、授業のデザイン(学習指導案)を作ったり、実際に授業をしてみる機会が増えたりして、教壇に立つ自分が思い描けるようになってきます。

そして四年目、ほとんどの人が前期中に教育実習に赴きます。実習先では、本当に「先生」と呼ばれます。その呼びかけにしっかりと応えられてはじめて、教職への道が開かれます。後期に開講の「教職実践演習」では、自他の実習体験を検討し、教師としての自身の今後の課題を探ります。教師はその職にある間、あるべき教育の姿を求め、探り、学び続けなければなりません。その意味では、学び方を学ぶ、そんな四年間といえるかもしれません。

文学と教育、専門が二つあるというのは、教師としては大変な強みです。

所属教員一覧

齋藤 智哉
教育方法学

高橋 大助
文学教育

高山 実佐
国語教育学

教育関連の副専攻プログラム

【古典教育研究 —古典教育のスペシャリストを目指して—】

本学が全学規模のスローガンとして掲げる「教職の國學院」と、日本文学科が掲げる「古典の読める國學院」の方針に基づき、本学の学統の強靱さを背景に、古典（古文・漢文）教育のプロフェッショナルを養成するための副専攻プログラムがあります。一般的な国語科教員免許の取得にとどまらず、「古典教育の國學院」という伝統・学統を継承・発展させる能力を修得し、古典研究の専門性を活かした教育のできる教員の養成を目的としています。プログラム修了者には卒業時に、「古典教育研究」修了証が授与されます。國學院大學でより多くの古典を学び、十分に教える能力を身に付けた教員であることの証しとなるものです。

【日本語教育（日本語教員養成課程）】

日本語教育に関する知識を、言語、教育、社会・文化・地域に関わる領域から体系的に学ぶことにより、多様な日本語教育の現場に対応した教師としての資質を磨きます。これらの知識は、異文化共生時代を迎えた日本、及び国際交流の進む海外における活動の選択肢を拡げることに役立つでしょう。



〈日本語教育（日本語教員養成課程）の内容〉

1年次	「日本語学概説Ⅰ・Ⅱ」等を履修し、日本語の特質を理解する。 「日本史概論Ⅰ・Ⅱ」「日本政治史A・B」等を履修し、社会・文化・地域に関わる領域について学修する。
2年次	「日本語史Ⅰ・Ⅱ」「日本文学史Ⅰ・Ⅱ」等を履修し、日本語の学修を深化させる。
3・4年次	「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ」「日本語教育研究Ⅰ・Ⅱ」「日本語教育学演習Ⅰ・Ⅱ」「日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ」等を履修し、非母語話者である日本語学習者に対する教授法を修得する。

上記の科目等26単位以上の修得により、「日本語教育（日本語教員養成課程）」の修了証が発行されます。この修了証は法務省告示校を含む日本語教育機関の教員募集の応募の際に使用することができます。



専門教育科目構成 [令和元年度参考]

○数字：単位数

		1年次	2年次	3年次	4年次	
学科基幹科目	学科基礎科目	日本文学概説I②・II② 日本語学概説I②・II② 伝承文学概説I②・II② 漢文学概説②				
	専攻基礎科目		日本文学講読I②・II② 日本語学講読I②・II② 伝承文学講読I②・II② 漢文学講読I②・II②			
	専門基礎科目	基礎日本古典文学④ (I類) 基礎日本古典語④ (II類) 書道④ (IV類) 影印講読② 基礎漢文学②	伝承文学基礎研究法④ (III類)			
	専攻演習科目		日本文学演習I④ 日本語学演習I④ 伝承文学演習I④	日本文学演習II④・III④ 伝承文学演習II④・III④・IV④	日本語学演習II④・III④	
	専攻外演習科目		表現文化演習I④	日本語教育学演習I④・II④ 言語学演習④ 表現文化演習II④・III④		
展開科目	日本文学科目群 選択I類		日本文学史I②・II② 日本古典文学研究IA②・IB② 日本古典文学研究IIA②・IIB② 日本近現代文学研究IA②・IB②	芸能文化論IA②・IB② 芸能文化論IIA②・IIB② 日本文学各論I②・II② 東アジア比較文学I②・II② 文献情報処理I②・II② 日本時代文学史I②・II② 日本古典文学研究III A②・IIB②・IVA②・IVB② 日本近現代文学研究IIA②・IIB② 書誌学I②・II② 日本文学特殊研究IA②・IB② 日本文学特殊研究IIA②・IIB②		
	日本語学 科目群 選択II類		日本語史I②・II②	日本語学史I②・II② 言語学概論I②・II② 日本語音声学I②・II② 古代日本語文法I②・II② 現代日本語文法I②・II② 現代日本語研究I②・II② 日本語学各論I②・II② 言語学特殊講義I②・II② 日本語教授法I②・II② 日本語教育研究I②・II②		
	伝承文学 科目群 選択III類		民俗学史I②・II② 伝承文学研究IA②・IB② 伝承文学研究IIA②・IIB②	伝承文学史I②・II② 日本民俗学I②・II② 口承文芸研究I②・II② 儀礼文化論I②・II② 比較民俗研究I②・II②	伝承文学思想② 現代文化論② 民俗文化財論I②・II② 比較口承文芸論I②・II②	民俗研究思想② 映像文化論② 民俗芸能論I②・II②
	表現文化 書道関連 科目群 選択IV類		書道実習I② 表現文化論IA②・IB②	書道史I②・II② 表現文化論IIA②・IIB②	日本書道史I②・II② 中国書道史I②・II② 書道実習III② 書道概論② 書論研究② マスコミュニケーション論IA②・IB②・IIA②・IIB② 表現文化論IIA②・IIB② 古筆学② 篆書法篆刻学② 隷書法② 古典教育研究I②・II② 書道実習II②・IV② 表現文化論III A②・III B②	
	関連科目	史学情報処理初級② 中国学入門②	中国文学通史②	史料講読④ 中国原典研究I②		
卒業論文				卒業論文⑥		

講義内容詳細「シラバス」と要卒単位数などカリキュラム詳細「履修要綱」を大学ホームページに掲載しております。大学ホームページにてご確認ください。

卒業後の進路

日本文学科の卒業生は、伝統的に公立・私立の中学・高校の国語科・書道科の教員として多数採用されていますが、地方自治体の職員などの公務員にも採用されています。企業ではサービス・広告・印刷・運輸・卸・小売や、メガバンクを含む金融機関などの幅広い業種に採用されています。1年次から配布している『文学部就職活動体験談集』を熟読し、各種の就職支援企画に積極的に参加してキャリアデザインをしっかりと考えることによって自分にふさわしい企業に就職しています。

日本文学科 127期生(平成31年3月卒) 主な就職先一覧(抜粋)		
業 界	就職先企業・団体名	教 職
公 務 員	足立区役所 大田区役所 目黒区役所 埼玉県庁 警視庁 練馬区役所	柏市立中学校 東村山市立中学校 千葉市立中学校 八千代市立中学校 横須賀市立中学校 府中市立中学校
サ ー ビ ス	医療法人沖縄徳洲会湘南厚木病院 株式会社セルリアンタワー東急ホテル 一般財団法人関東電気保安協会 日本事務器株式会社 エイベックス株式会社 ヤマトシステム開発株式会社	小田原市立中学校 海老名市立中学校 入間市立中学校 神奈川県立高等学校 千葉県立高等学校 東京都立高等学校
マスコミ	日本放送協会 株式会社岩手朝日テレビ	他、私立中学、高等学校
運輸・通信	全日本空輸株式会社 国際自動車株式会社	※非常勤講師を含む
卸・小売	小菱商事株式会社 ナブコシステム株式会社 ソニービジネスソリューション株式会社 スターバックスコーヒージャパン株式会社	
金 融	中央労働金庫 みずほ証券株式会社 株式会社千葉銀行 明治安田生命保険相互会社 住友生命保険相互会社 日本生命保険相互会社	
教 育	国立大学法人筑波大学	
建 設	株式会社東京組	
不 動 産	三井不動産リアルティ株式会社	
製 造	東洋紙業株式会社 株式会社コーセー 日本ペイントホールディングス株式会社	
非 営 利	葵舞踊振興協会	

國學院大學文学部
日本文学科ガイドブック

令和2年3月31日 第1刷発行

編集 日本文学科教務小委員会

発行 國學院大學文学部日本文学科

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28

印刷・製本 株式会社 秀飯舎
落丁・乱丁はお取り替えいたします。

國學院大學文学部日本文学科

